

信州 ESD コンソーシアム

令和4年度 信州 ESD/SDGs 成果発表&交流会 実践記録



1. 学校名 対象 (学年、人数)

山ノ内町立東小学校 4 学年

男子 16 名 女子 13 名 計 29 名

2. 探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動名 ぼくの私のコカリナ

(2) 目標 自分だけのコカリナを作ったり、演奏活動をしたり、コカリナ工房を見学したりするなどして、コカリナ製作者の方やコカリナクラブ「かえでの木」の方の思いを知り、故郷山ノ内町の自然への関心をもつとともに、演奏活動を通して自然の大切さを発信することができる。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

① 構成概念

多様性 (多種多様な現象が起きていること)

公平性 (一人ひとりを大切に)

相互性 (関わりあっている)

連携性 (互いに連携・協力すること)

有限性 (限りがある)

責任制 (責任を持って)

その他 ()

② 育成する資質・能力

批判的に考える力

他者と協力する力

未来像を予測して計画を立てる力

つながり尊重する態度

多面的・総合的に考える力

進んで参加する態度

コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs

12 つくる責任 つかう責任

15 陸の豊かさを守ろう

17 パートナリーシップで目標を達成しよう



(5) 探求課題・活動実践の概要

現 5 年生が音楽会でコカリナを吹く姿を見て「私たちも 4 年生になったらやるの?」と楽しみにしていた子どもたち。5 月にはコカリナ製作者の大熊さん、北澤さんから「自分だけのコカリナ」を一緒に作ってもらい、コカリナクラブ楓の木の山本さんから演奏の仕方を教えてもらった。「いろいろな曲を吹きたい」という願いを持ち、お家の方の前や焼額山遠足、「コカリナフェスティバル」、校内音楽会など多くの場所で演奏してきた。その後、北澤さんの工房やその思いに触れたり、コカリナについて調べたりしたこと、いろいろな曲をふけるようになり、それを多くの人に楽しんでもらえたこと「山ノ内町の木を使い生まれた楽器にふれることができ、まわりの自然について考えられたこと」「コカリナをみんなで練習したり、協力して演奏したりする楽しさが分かったこと」を学ぶことができた。そして、「これからもコカリナを吹いて、たくさんの人にその楽しさやよさを伝えていきたい」「自分たちのコカリナ演奏をきっかけに山ノ内の自然について考えてほしい」という願いをもつことができた。

3. 流れ (指導計画の概略)

○「自分だけのコカリナ」をコカリナ製作者の大熊さん、北澤さんと一緒に作る。

コカリナクラブ楓の木の山本さんから演奏の仕方を教えてもらう

○焼額山遠足やコカリナフェスティバル、音楽会等で演奏する。

○コカリナについて、北澤さんの工房を見学したり、思いを聴いたり、調べたりする。

○この活動で分かったことや学んだこと、感じたことをまとめ、発信する。

4. 効果・反応・所感

昨年度の反省からはじめにコカリナありきではなく、子どもの願いに沿って活動を進めてきた。子どもたちは嬉々として「自分だけのコカリナ」を作り、自分たちが演奏したいと思う曲を練習し、発表していた。技量には個人差があるものの、みんなで一緒に吹くことで一つ一つの曲が完成していった。音楽会が終わった後、これからの活動について話し合ったとき、「どうやってコカリナを作っているのか」「北澤さんは熊のマークを変えるのか」「工房を見てみたい」といった声上がり、見学させてもらうことになった。残念ながら見学は叶わなかったが、担任の撮影したビデオで工房の様子や製作の様子、北澤さんのコカリナ製作への思いを知ることができた。北澤さんが輸入した木だけでなく、地元の木を使っていることや建築後に出た廃材を大事に使っていることを知った子どもたちは「もったいないことをしてなくていい」「これってリサイクルじゃん」と感動していた。そして、「もっといろんな曲を吹いてその楽しさやよさを伝えていきたい」という思いをみんなで共有することができた。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

指導に関わっていただいた人：コカリナ製作者大熊さん、北澤さんご夫妻、「コカリナクラブ楓の木」
山本さん

活用した資源：コカリナ、志賀高原